

平成 29 年度第 4 回香川公民館運営審議会議事録より諮問に関する部分の抜粋

○山地会長

ではよろしいですか。次に移ります。議題 2、諮問についてということで事務局の方から説明をお願いします。

○香川公民館

今日は当日配布の資料の 2 というものなんですけれども、来年度諮問させていただくという流れになっておりまして、諮問の案を作成させていただきました。検討を要する事項ということで、地域の教育力を育む施設としての公民館としての役割はどうあるべきかということで諮問させていただけたらなと思っております。その中でも公民館の役割でも 3 つ、未就学児から小学生の居場所である、それと地域の大人との関わり合い、中学高校生と未就学児小学生との関わり合いの 3 つに集約させていただきました。理由につきましてはこちらに記載の通りなのですが、国の答申の方でも公民館の位置づけというんでしょうかね、今後どういう役割が求められるかといったところを記載しております。この中で子どもとの関わりにおいて公民館としてどのような方策で地域の教育力を向上させられるか、ということが必要な時期であると認識しております。そのために後段の一をご検討いただけたらなと思っております。子どもとの関わりというところにフォーカスはするんですけども、地域の大人ですとか、なかなか今関わりが薄い中学生高校生こういった方たちにも関わって、あらゆる世代の人たちがどういう風にして関わっていくべきところなのかというところを、公民館の役割として皆さんに議論いただいて答申いただければと思っております。なぜこういった形になったかといいますと、資料は 2 - 2、これは 29 年度の茅ヶ崎のまちづくり市民満足度調査の報告書から抜粋をしております。北部地域のまちづくりの満足度と重要度というところで、地域で満足度の重要度ともに高い項目というのがいくつか出ているかと思えます。やはりお子さん、教育こういったものが非常に高い割合で、重要度が高いという判断がこの地域ですしております。満足度では色々ございますけれども、こういった結果が出ております。裏面を見ていただくと、こちらは重要度が高いけれども満足度が低いという項目が出ております。これはどちらかというともまちづくり的な部分で重要だと思っても満足度が低いというものです。下にもマトリクス表がありまして、どの辺でこの項目が位置づけられるかというのを示しています。満足度が高いというのは、学校もそうですし公民館もそうですし、そういった教育関係に携わる者としては非常に嬉しい結果ではあるんですけども、ただそれが本当に完璧かというところではないわけですし、やはり重要度が高いものについてはもう少し深く掘り下げて、市民満足度を上げていかなければならないなと思っております。特にこの質問項目もざっくりしておりますので、何が満足なのかというのが明確には見えないのですけれども、子どもたちの生きる力を育む学校・家庭・地域の教育力というのが、満足度がさほど悪くはないのですけれどもそこまでいいわけではない。安心して子育てができる環境、と

というのが2番目に重要なものとしてなっております。これはまあまあですよ。子供たちが安心して学べる教育環境、これも重要度が4番目に高く、満足度も重要度から考えると満足度もそこまですごい良いわけではない。満足度が高いのは住み心地なんですよ。住み心地って何なのかというところがありますが、定性的な話なのかもしれません。

○明石委員

ハードだけではなくてソフト面かもしれませんね。この安心して学べる教育環境っていうのは、具体的にどういうこととかあるんですかね、暴力とかがないとかそういうもので考えてしまってよいんですか。

○香川公民館

この項目だけではなかなかわからないところがありますね。

○山地会長

一応全体の傾向としてはこういう傾向にあるので、これの中身はどういう風になっているのかは、もう少し掘り下げていかないと具体的などころにつながってこないのかなという感じがします。

○香川公民館

全体の市民満足度調査というものは非常にボリュームのあるものとなっております。数字を基にした分析も必要だとは思っていますので、そういったものを交えながらご議論をいただきまして、私どももちろん準備はいたしますので、議論できる形で来年も進めて行けたらと思っております。

○山地会長

先日の神奈川県公民館大会のところでも公民館の役割としては、地域の課題というか、そういうものを解決するということがあったので、その1つの地域の課題としてこういうアンケートの結果から地域の課題というのは抽出してそこにフォーカスをしてやっていくのはどうかという感じはしますね。

○香川公民館

検討して行く前段で会長とも少しお話をさせていただいたのですが、公民館大会ではいろいろな議論のテーマをいただきましたので、その地域課題というところは分析するにはやっぱり市民満足度のような、満足度に最終的にはなってしまうのですよ、講座何回やったとかだけじゃわからないことがある。最終的な評価っていうのは何とかというのが最終的なものになると思っております。

○山地会長

そうですね。何か皆さんの方からご意見ございますでしょうか。

○香川公民館

全然違うアプローチのご提案あればそれでも構いません。前回の答申は若者をいかに巻き込むかというものでした。その前が地域に開かれた公民館というものでした。

○山地会長

先ほど皆さん少し意見が出たように学校とか幼稚園とかもそうかもしれませんけれども、そういうとこだけが教育だけではなくて、それ以外のところでできるところはどのようながあるのかと、それは公民館でできる場所があれば、そういうのは提案していければいいのかなと思っております。

○奥谷委員

フリースクールじゃないですけども、そういうのも広まっていきつつあり、茅ヶ崎でもいろいろな団体の方が常に動かれていて、**児童の学習支援**とかそういう場面ではもうご自分たちで本当に全部ボランティアという形で、場所を提供するので子どもの学習をみようかという感じで、ほんとにいろいろな団体がたくさんあります。実際にのびしろクラブというものがあるんですけども、そういうふうな感じで子どもたちが学習で困っている部分を支えていこうっていうときもあるし、地域の中で育てられているというところがすごく大切だと思うのですよね。香川小学校では本当に感じるんですね。いろいろな行事、昔遊びに関しても何でも本当に協力していただいて、いろいろな体験をさせていただく。それは学校だけではできないそういうふうに地域がいろいろなことに関わっていただくことによって子どもたちがどんどん馴染んでいくというか、地域といろいろなことを通して結びついて行けたらそれが素晴らしいと思うので。公民館のいろいろな事業もそうですけども、香川の子どもにとっては、ほんとに大きな存在だなというところで手助けになっていると感じています。

○鈴木委員

幼稚園ではカルタをやったりするんですけども、**茅ヶ崎カルタ**というのがあるんですね。そういうのをいただいたので、やってみたら結構子どもたちもカルタ遊びだとすごい喜んでやったりするので、地域的なことも勉強しながら。**上毛カルタ**でしたっけ、どこの小学校に行っても幼稚園に行ってもそれをやっているから、そこで生まれた子供たちは大人でも同じものを習ってやってきたから世代を超えて話が合うというのは聞いたことがありますので、そういうのをやったりしたら面白いなときもしますが。

○香川公民館

茅ヶ崎カルタは公民館にはあります。

○大谷委員

茅ヶ崎カルタは青少年指導員で最初紹介されて地域に持ち帰ろうということで、**プラザ**に置いてみたりと色々と活動してきました。**鶴が台でも地域の方が子どもたちの居場所づくりが必要だ**というところで、月に1回夕方にかけているんですけども、私行ったことないのでわからないんですけども、お話聞く限りすごい盛況で、ゲームをしたりですとかご飯を食べたりですとか、お勉強したりするスペースですとか、かなり流行っていて、どんどん人も増えているって聞くんですね、だからそういうところを見てみたりするのもいいと思いますし、何よりも、香川公民館では、放課後に子どもたちがすごく来て、ロビーで遊んでいるというのがすごく印象的で、ちょっと使いたいなというときに来ても私たち

が入るスペースがない位子どもたちがいるので、本当にここって子供たちにとって必要な場所だというのは来るたびに感じるのも、そこに大人としてどう描かれるのかというのは考える必要があるのだなというのはほんとに思いました。

○山地委員

子どもだけではなくてね、そこにお年寄りとかご高齢の方も一緒にいられる場所とか、そういうところで何か新しいものを教えてもらおうとか、そうやってつながるといいかなと思っております。

○明石委員

社会教育というところでフリースクールとかの話さっき出ましたけれども、あとは学び直しが何かできたらいいなと、若い方とか若くなくても社会出てみて知識がいるんだなと、何か学び直しも講座みたいなものとか、それも小学校中学校でなかなか勉強する気持ちにならなくてできなかった子も、大人になってみたらこういう勉強とかこういう学問が面白かったとかあるので、そういった機会でも学べる、その学びの出会いとかいうのもすごくあるといいなと思っております。

○山地会長

ではこの内容で諮問として我々の方で受けさせていただくということでもよろしいですか。

○香川公民館

来年度の第1回でこの正式な諮問という形になると思います。この内容ですと広がりもありますし課題もたくさんありますので良いものができると思います。

○山地会長

何か今質問等ありますか。

○明石委員

答申はどのような形でどのようなスケジュールでどのような風にまとめていったらいいのですか。

○山地会長

大体毎回議論するような形になると思うんですけども、最終的には3月に答申書という形で出します。それまでに議論したり意見を書いていただいて、それを最終的にまとめていくという形になると思います。年4回公民館運営審議会がありますので、そのところでまとめていくという感じになりますね。なのでその審議会の中に意見を書いてもらったりすることもあるかと思えます。

○香川公民館

前回のものは臨時会もあったんですが、今回はなるべく少なくする方向で行きたいと思えます。今日だけでも結構いろいろな話がいただけたので。

○山地委員

今日はこの案をいただいてこれで良いかというような内容なんですけれども、もしこれでよければ第1回目の時にでもこれに関して皆さんから何か思う所をご意見いただいて、

具体的な内容でもよろしいですし、これまで経験した内容でもよろしいですし、今いろいろなところでこういうことが行われてますよというようなことでも良いと思うんですけれども、何かコメントやペーパーで出していただければ、それをまとめて次回の審議会の時に皆さんのほうに紹介をしていただければいいかなと思います。それは後程公民館のほうに資料送っていただければと思います。

○香川公民館

後程またお話ししますが、平成30年度の第1回審議会は5月連休明けの2週目か3週目を予定しています。4月中かそのぐらいまでの私にいただけると、そんな長いものではなくて構いませんのでメモ程度で結構です。先ほどしていただいてお話でももちろん構いません。特に一番難しいのは中学生高校生とどういふふうに関わっていくか、1番忙しい時期の子たちなので、1つボランティアのクラブだとか高校にもありますので、そういうところから協力をいただくとか、そういう形でやって子供たちも歳が近いお兄さんお姉さんが方が言うこと聞くんですよ。

○大谷委員

実際に中高生っていうのは公民館に来ていたりするのですか。

○香川公民館

少ないですがいます。例えば高校生のバンドをやっている子たちが練習に来たりします。ただ大きい音が出せないの音を絞って練習したり。あとカードゲームやっている子たちが中にも中高生が来ていることもあります。小学生に教えてあげてみたいですね。そういうのもあるのですよね。雀荘みたいになってしまっております。

○明石委員

高校生って難しいではないですか、中学生だと地域の子供ですけれども、高校だといろいろなところから来ていますから。日常茅ヶ崎に来ている子でも家は遠くだったり。毎日の生活と公民館が高校生になるとどんどん違ってきてしまいますもんね。

○香川公民館

参加ではなくて運営に関わる形になるかなと思います高校生は。ボランティア部がどこにでもあるんですよ、JRC、赤十字の関係のジュニアレッドクラスというのがあるんですよ。そういうところから声をかけていくのもあるかなと思います。多世代が関わるといってやっぱり公民館まつりとかそういうところになりますけれども。きっかけを作らないとなかなか始まっていけないので。

○鈴木委員

幼稚園では職業体験で今高校生で受け入れてるんですけど、それを見ると男の子もすごく積極的に子どもの世話をしたいっていうのがあったりしてそれで子どもたちにもすごい人気で。そういうのを見るとこういう機会を設けてあげると高校生たちの子も素直にやってくれるのだなということを感じるの。よくアメリカとかだとボランティアの活動をすると成績の形になるっていうのがありますよね。

○奥谷委員

大学はそういうのがありますよね。やっぱりボランティアで学校のほうに支援に行くとそれが単位になる。それで大学生の方も来たりすることあるので。

○香川公民館

公民館もインターンシップとか受け入れていることもありますので。そういう時は大学生が来る時はあるのですけれども。ちょうど事業がない時に来たりなかなか難しいんですよね。夏休みとかは自由広場などをやっているので事業が少ないので。学校の先生が来られることもあるんです。去年は小田原の先生が来たりして。そういうのをうまくマッチングしてくれるといいんですけどもね。

○明石委員

発信の仕方なんかは、キャッチしやすいような事業の紹介をされるといいですよ

○香川公民館

今おっしゃってるのは昨年の答申の10ページですね。若い人たちの利用を増やしたいとなると今までは広報誌とかチラシとかだけでPRをしていたんですけど、SNSの活用ですとかFacebookなのかTwitterなのかInstagramあるかというのがあるんですけども、実はこれを受けましてFacebookはもう始めております。

答申書はこのような形で仕上げていくんですけども、先ほど話したような形で1回目すでにいろいろ意見出していただいていますので、それを吸い上げて、2回目にはある程度骨格なものは作ってまた議論していただいて、3回目には完成に近いような形でもう一回見ていただいて、スケジュールとしては前回の答申書の記載がありますが大体同じような形を想定しております。臨時会が10月2月に入っているんですけども、なるべくやらないような方向で調整したいと思います。最後3月に答申をいただくような方向で行きたいと思います。